



でんえい会誌 第31号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<https://www.denei.jp/>

＜電影会会長就任のご挨拶＞

電影会会長 山中 清(J52)

薫風の候、名工大キャンパスを通り抜ける風も心地よく爽やかさを感じる季節となりました。昨年5月の総会で石橋前会長の後任として電影会会長に就任した山中清です。情報工学科第1期生として卒業してから、IT企業で3年、輸送機器メーカーで40年間勤務し会社生活を卒業しました。現在は非常勤国家公務員として、デジタル田園都市国家構想実現のために、ビッグデータを使った地域経済分析システムの普及活用支援を行っています。

昨年5月からの電影会の活動を振り返って、私を感じた良かった点、改善すべき点を述べたいと思います。

まず、良かった点は12月に実施した「卒業生と学生との懇談会」です。一昨年は、新型コロナウイルスの影響で「WEBによるオンライン」となりましたが、昨年は「大学会館での対面」となり通常通り開催でき、学生、卒業生（企業側）双方が満足して頂けたことは、開催して本当に良かったと感じています。

次に、改善すべき点（及び私が考える対応策）は、以下の4点です

① 大学や名古屋工業会（名古屋支部）との連携

【改善すべき点】：電影会では役員の中から「名古屋工業会名古屋支部連絡幹事」を数名アサインしていますが、このところ新型コロナウイルスの影響や若手教員の負荷も高いことから会合への出席率が低い傾向であった。

【対応策】：今年度は私のような学外役員の出席率も上げ、学内の先生の負荷を少しでも軽減し、上部組織との連携強化を進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

② 会誌配布方法の改善

【改善すべき点】：現在、電影会誌は紙媒体で約9千名の卒業生に郵送しております。そして、毎年約250名の新会員が入会し、それに伴い通信費や印刷費が毎年増加し、電影会の運営費を圧迫してきております。

【対応策】：名古屋工業会ではすでに会誌の郵送は中止しWEB配信に移行しておりますが、電影会としての移行にあたっては、デジタルデバイドが生じることのないよう配慮し検討を進めたいと思っております。

③ 電影会ホームページからの情報発信強化

【改善すべき点】：電影会HPは長年維持されてきたが、一部古いデータが散見される。そこで、見やすく維持し易いHPに更新が必要と考える。

【対応策】：先ず、情報発信量を増やす。例えば電影会開催行事の案内と実施結果のタイムリーな報告や学外の卒業生の寄稿などです。つぎに、学内の先生に協力頂いて学生による電影会HP作成コンペティションを計画する。この取組みは、平成6年事業として「ソフトウェアコンペティション」を実施したことがあり、30年ぶりの企画として取組んでみたいと考えております。

④ 総会参加者の若返り促進

【改善すべき点】：昨年の総会は新型コロナウイルスの影響でハイブリッド（対面・オンライン=Zoom）にて開催させていただきましたが、若い現役の卒業者は少ないように感じました。また、電影会HPのクラス幹事紹介では昭和の世代しか記載されていないため、若い世代での組織作りが未完。

【対応策】：今年度は、可能な限り対面で実施したい。また、平成以降の卒業生のクラス幹事を決めて、電影会への参加者の若返りを計り、組織を活性化していきたいと考えております。

以上が約一年間を経て感じたことです。

対応策については、私の思いであり、実現にはさらなる検討が必要と考えております。

私は数年前から名工大の実務型教員として学生と接しております。その経験も加えると、産学官での経験があります。この経験を生かし、これからの少子高齢化での技術人材の育成、卒業生と大学との橋渡しを行い新技術創出等に、少しでも貢献したいと考えております。

電影会の役員の方々、会員の皆様のご意見を反映しながら、先ほど述べた改善の実施に向け取り組んでいきたいと思っていますので、皆様のご支援とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

<2024 年度新専攻開設に対する電気電子分野からの貢献>

電気・機械工学教育類 加藤 正史

名古屋工業大学（名工大）は、2024 年度よりドイツのエアランゲンニュルンベルク大学（FAU）と共同で、国際連携エネルギー変換システム専攻（博士後期課程）を開設した（参考 URL <https://www.nitech.ac.jp/edu/newkatei.html>）。この専攻はジョイント・ディグリー（JD）プログラムであり、修了することで名工大および FAU の両方から学位が授与される。そしてこの専攻には、電気電子分野から私（加藤）と安在 大祐 先生、関 健太先生が参画している（工学専攻との兼任）。ただし、この新専攻が開設される前の準備段階として、名工大と FAU との日独共同大学院プログラムが 2019 年 10 月より開始されており（参考 URL <https://jgge-eng.web.nitech.ac.jp/>）、電気電子分野からは上記の 3 名のみならず、過去・現在を含めて王 建青先生、小坂 卓先生および平田 晃正先生がご参画されてきた。したがって、国際連携エネルギー変換システム専攻の開設に至るまで、電気電子分野からの貢献は無視できないものである。

この新専攻の内容は、エネルギー変換システムの関連分野において、博士課程の学生を FAU との共同研究を通じて指導するものである。そのみならず、

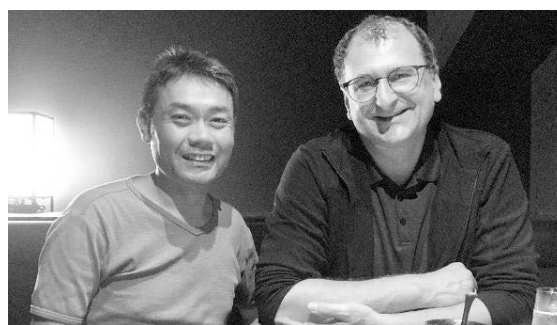
所属学生は日独の両方の講義やワークショップの受講を要求され、さらに修了までに 10 ヶ月以上のドイツ留学が必要とされる。これにより学生はドイツの大学における教育・研究を体験できるとともに、国際的な学生間のネットワークを構築できる。もちろん、これらの活動における滞在費・渡航費などは大学から負担され、それ以外にも給与が支払われる。一方で、教員も FAU を訪れ、講義をするなどの負担があるが、共同研究による新発見の可能性と、ドイツ側の学生を指導する機会が得られる。これらの内容は、以前の日独共同大学院プログラムとほぼ同じであるが、新専攻の方が学生の留学期間および金銭的なサポートを充実させている。

下の写真は FAU の Prof. Christoph Brabec（ドイツにおけるペロブスカイト太陽電池の第一人者）が、名工大に来て講義をした際の写真である。このように FAU 側の教員・学生も、名工大の教員・学生と同様の負担が課せられる。



名工大での Prof. Christoph Brabec の講義風景

日本とドイツの間の移動は、時間もかかり時差もあるためお互い楽なものではない。私自身もドイツ鉄道のストライキに直面するなどの苦労を経験した。ただし、その過程で日常では得られない交流が生まれる。大学の国際化のためにも、今後様々な分野の学生・教員のご協力に期待している。



筆者と Prof. Christoph Brabec

＜女子推薦入試について＞

情報工学教育類 武藤敦子

(ダイバーシティ推進センター副センター長)

2024 年度入試より情報工学科を含む 3 学科において女子特別推薦が開始されたことにあたり、本学および情報工学科における女子学生を取り巻く現状について紹介いたします。

1. 男女共同参画とダイバーシティ

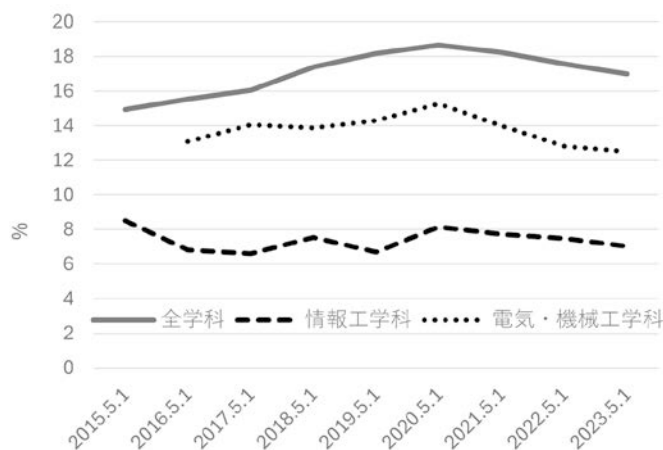
本学では男女共同参画社会基本法の施行を受けて、2009 年に「男女共同参画推進室」が、2017 年には「ダイバーシティ推進センター」が設置され、女子学生や女性技術者、女性研究者を取り巻く環境の整備のための様々な取り組みが行われるようになりました。具体的には、博士後期課程を目指す女子大学院生や女性研究者への研究活動経費の補助、キャリア形成セミナー、女子小中高生向け理系選択支援などが挙げられます。

2. 女子学生比率

これらの取り組みや社会的機運の高まりにより 2015 年に全学にて 14.9%であった学部学生における女子学生比率は 2020 年には 18.7%となり現在は 17%付近を推移している状況となりました(図)。一方で、情報工学科の女子学生比率は 2023 年のデータで 7.6%となおも低迷が続いています。そもそも情報分野をはじめ理工系分野に女性が少ない理由としては、同分野の女性のロールモデルの不足や、分野や能力についての幼少期からのステレオタイプなどが研究論文などで挙げられています。これらに対し大学ができることの一つとして、まずはこの分野の女子学生の比率の底上げがあり、それにより卒業・修了後に社会で活躍する女性(ロールモデル)を増やしていくことが可能となります。

3. 女子推薦枠

本学では 1994 年度入試から機械工学科(現在は電気・機械工学科)に女子特別推薦制度が国立大で初めて導入されました。導入前の女子学生比率は全学で約 7%でした。前述の通り近年では本学全体の女子学生比率は上昇傾向にあるものの、社会からの女性技術者の需要の高まりや学修上の多様性が十分に確保されていないという状況から 2024 年度入試



図：学部学生における女子学生比率の推移

より女子特別推薦枠の拡充が新たに行われました。情報工学科では初の実施となりましたが、結果的に多くの応募があり無事選抜を終えることができました。

4. 期待される効果

女子推薦の実施により、推薦入試によって入学する女子学生数の単純な増加とさらには一般入試への女子受験生の増加が期待できます。推薦入試によって学科内に一定数の女子学生が確実に存在する状況は女子受験生にとって安心できる要素となりますし、またこの分野に女子が求められているという認識も生まれます。また、講義室や研究室に女子学生が増えることで男女どちらの学生にとってもより多様な視点のある学びの場が構築されます。その効果は学内にとどまらず、多くの工学系女性技術者を社会へ輩出できるようになることで、企業におけるダイバーシティ推進へ貢献できるとともに女子らにとっての将来の目指すべきロールモデルが増え、女性のキャリアパスの選択肢が広がることが期待できます。

一方で、将来的には女子推薦が必要なくなるような社会が実現するべきだと考えます。そのためにも現在は様々な施策を通した結果を十分に分析することで、よりよい大学の形を探っていくことが必要です。今後も工学分野の女子学生や女性技術者の活躍を見守っていただければ幸いです。

＜退職にあたって＞

電気・機械工学教育類 水野幸男

平成5年11月の着任以来30年5か月を過ごした名古屋工業大学を、この春に定年退職することになりました。

名古屋大学大学院で従事しました、超電導電力機器の電気絶縁を想定した極低温における高分子材料の特性評価が研究の出発点でした。博士課程修了後に助手を務めた豊橋技術科学大学では、極低温電気絶縁の研究を継続・発展させ、エチレンプロピレンゴム絶縁超電導ケーブルの課通電試験（20m長、4.2 K、20 kV、4 kA）を行いました。

名古屋工業大学では、電気機器・設備の電気絶縁および信頼性評価に関連する研究に従事しました。今思うと手を広げ過ぎた感もありますが、主な研究の概要を以下に示します。

商用周波電界・磁界の定量化：同一の測定器および測定手順により、世界7か国で電力設備から発生する電界・磁界を測定し、評価を行いました。電界・磁界の人体へのばく露評価のための情報提供に資するものです。スペイン語圏にも何度か出かけましたが、努力不足でスペイン語習得には至らず、もったいないことをしたと反省しています。

誘導電動機の故障診断：機械学習や人工知能の故障診断への適用を、世界に先駆けて実施しました。ベアリングの傷・電食、固定子巻線短絡、回転子バー折損などを対象として、故障有無の判定のみならず故障種類の識別を可能にしました。故障の初期状態での検出および故障進展追跡において、診断の高信頼性化に新たな道を拓いたと考えています。

確率論的手法による信頼性評価：送電用がいしの耐汚損設計において、決定論的手法に代わる確率論的手法を提案しました。決定論的手法は、過去の最悪条件を想定し裕度を加えて設計する方法で広く用いられていますが、最悪条件の発生確率は一般的には極めて低く、裕度は経験に基づいています。蓄積されたデータや経験は貴重ですが、必ずしも合理的ではない面があります。一方、確率論的手法は、危険率や事故率などの評価関数を導出し、変数の確率分布やリアルタイムの変化を考慮する方法です。

所定の危険率や事故率を許容すれば、確率論的手法により合理的設計ができることを示しました。また、送電線電線の引張強度低下や弛度の確率論的手法による評価も行いました。更なる深化と適用分野拡大を期待しています。

電気設備機器火災の未然防止：電気設備機器の火災は全火災発生件数の1/3以上を占め、テレワーク普及も一因となって年々増加傾向にあります。配電器具類からの出火の主原因は、差込みプラグのトラッキング、電線の半断線・短絡、導体接続部の発熱です。半断線による火災は、大地震による停電後の復電時にも発生しています。これらの現象を実験室で再現して発火に至る過程を解明するとともに、種々の特徴量に基づく火災未然防止手法を提案しました。

また、研究を通して得られた知識と経験を基に、電力設備の発生する電界・磁界の測定手順や測定器の仕様、がいしに関連する国際・国内15規格の制改訂に携わりました。とりわけプロジェクトリーダーとして取り纏めたIEC 62110（和訳はJIS C 1911：交流電力システムから発生する電界及び磁界の強さ—公衆の人体ばく露を考慮した測定手順）に規定されている測定手順は、我が国の電界・磁界規制値の適合性評価のための手順として「電気設備の技術基準の解釈」に示されており、電気設備の設計や保守管理において重要なものです。

長年にわたり思う通りに研究を遂行できましたのは、名古屋工業大学および電影会の皆様をはじめ数多くの方々のご理解・ご支援のお蔭です。また、当研究室の学生諸君は、研究生活を楽しく有意義なものしてくれました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

末筆になりましたが、名古屋工業大学ならびに電影会のさらなる発展、皆様のご多幸とご活躍を祈念致しております。

＜31年間の教員生活を振り返って＞

情報工学教育類 石橋 豊

卒業研究からNTT研究所(10年間在職)を経て定年退職までの44年間に一貫して通信・ネットワークの研究に従事することができたことは大変幸せでした。

特に退職前の数年間は、大学や学科の運営にも加わらず、心のおもむくままに研究させていただいたことに感謝しています。

本学での卒業研究と修士の研究では、3年間にわたり、放送型パケット通信網におけるプロトコル（通信手順）の動特性を平衡点解析の手法を用いて理論解析しました。NTT 研究所では、パソコン通信ネットワーク、HDTV ビデオテックスシステム、ビデオオンデマンドシステムの研究実用化を行いました。実用化研究においては、同じ研究部の研究者に国際会議論文やジャーナル論文を発表しておられる方がほとんどいなかったため、論文を書くのに苦労しましたが、大学時代に学んだ論文の書き方や研究手法を適用して上記のシステムの理論解析を行うことができました。本学に助教授として着任してからの31年間は、マルチメディア通信サービス品質（QoS: Quality of Service）制御の研究に従事しました。2001年に教授に昇任してからは、視聴覚に加えて触覚の伝送を扱うようになりました。また、嗅覚も扱いました。そして、2014年からは、触覚伝送の研究をさらに発展させ、力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステムの研究を行いました。この間、多くの学生や教員、研究者との共同研究を行うことができたことはとても有意義であったと思います。最後の2年間は、知の拠点あいち重点研究プロジェクト第IV期「他感覚 ICT を用いたフレイル予防・回復支援システムの研究開発」（3年間）が採択され、本学、名古屋大学、国立長寿医療研究センター、(株)セカンドコンセプトの教員、研究者らと、最後の総仕上げとして、フレイル（心身機能脆弱状態であり、健康な状態と要介護の状態の中間段階のこと）の早期発見・予防・回復支援を高効率に行うシステムの研究開発に従事しています。私は、研究リーダーとしての総括と、メタバースによる歩行支援システムと仮想書道システムの研究開発を担当しています。これらの研究は、他の人たちとの会話の中で始めることができたものが多くあります。人間関係には苦労したこともありますが、このような意味においては、人に教わり、助けられた研究生活であったと思っています。

電影会に関しては、助教授として着任したときに

は、まだ本学卒業の教員の数少なく、電影会の先生方は、お互いに力をつけるため協力し合っていた時期でしたので、大変勇気づけられました。その後、電影会会計幹事を経て、2005年度、2006年度には電影会学内副会長を仰せつかりました。この年は、名古屋工業会名古屋支部を担当する年であるだけでなく、本学設立100周年記念の年でもありましたので、寄付金を集めるなど、非常に忙しく、大変な思いもしましたが、多くの先輩方のご協力を得ることができ、無事職務を全うできたと感謝しています。2019年度からの4年間は電影会会長を仰せつかりました。コロナに始まり、コロナで終わった4年間でした。学生と役員との先生方との連絡は密に行うことができましたので、学内の教員が会長であったことは幸いでした。最初の年はほとんどのイベントは中止となり、2年目からはイベントの一部はオンラインで実施するなど、役員との先生方ができるだけ活動を維持するように工夫していただけました。コロナ禍が収まりつつあった年に山中会長に引き継ぐことができよかったですと思っています。

今後は、ご縁があつて愛知産業大学経営学部勤めることになっています。これまでと違って、大学や学部の運営などが主な役割となり、大学改革を積極的に推進していく立場となります。引き続き、卒業生の皆様のご支援・ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

＜2023年度の就職状況について＞

電気電子系就職担当 市村 正也

2024年3月卒業予定の学生を対象に就職担当として指導などを行いました。約15年前に一度就職担当になったことがあり、今回が二回目の担当です。前回とは就職状況が色々変わっており、戸惑うことも多々ありました。

まず変わっていない点を述べます。今年もたくさんのお企業さん(約480社)から求人をいただきました。学部生約110名は8割程度が大学院に進学、大学院博士前期課程修了者約110名は95%以上が就職しました。(創造工学教育課程の学生のうち電気電子の教員が指導している学生もここに含まれています。)名

工大生が非常にたくさんの企業さんに求められていることを改めて感じました。

一方、以前と大きく変わった点は採用活動の時期や方法です。厚生労働省が示している現在のルールは「広報活動は3月から、選考は6月から」というものですが、以前から3月より前に採用活動は始められていました。ただそのように先行して行われる採用活動が今回はいっそう数が増え、時期もさらに早まっていました。(本来スタートの時期である3月1日には、すでに相当数の学生が内々定というゴールに達していました。) また、もっと前の時期に行われるインターンシップを採用活動のきっかけにしているケースも相当数あったようです。

前年度までは新型コロナ COVID-19 感染防止のため、対面での採用就職活動が制限されていました。今年度はその感染がほぼ終息し対面での活動が行いやすくなったことが、採用活動の前倒しにつながったと推察します。その状況の変化を十分把握できず、学生への進路指導の時期が遅くなってしまいました。また企業さんとの意思疎通が不十分になってしまったケースもあり、反省しています。

電影会で実施していただいている懇親会は学生にとって貴重な情報収集の場となっていると思います。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

＜2023 年度の就職状況について＞

情報系就職担当 白松 俊

2024 年 3 月卒業の情報系の学生の就職担当を務めました。情報系の進路指導対象学生は、第一部の高度工学教育課程情報工学科の学部生（3 年生以上）、第二部電気情報工学科の学部生（4 年生以上）で配属研究室の指導教員が情報工学科所属の学生、大学院工学専攻情報工学系プログラムの学生（修士 1 年生以上）、および創造工学教育課程で情報を主軸とする学生（修士 1 年相当以上）です。一部学部生 144 名（うち就職 20 名）、二部学部生 1 名（うち就職 1 名）は例年とほぼ同水準でしたが、大学院生（前期）は 144 名（うち就職 132 名）と昨年よりやや多い人数でした。情報系の学生に対して頂いた求人企業数は昨年

より 19 社増え 328 社でしたが、大学推薦応募が可能な企業数は 238 社と昨年より減少傾向でした。大学推薦についてはジョブマッチング方式が主流となり、旧来のように大学側で学生を選抜し絞り込む大学推薦は大きく減った印象です。また、多くの業種で DX 人材が求められている社会情勢から、情報系の人材を求める企業の幅がますます広がっています。

昨年度はまだまだコロナ禍の影響が色濃く残っておりましたが、2023 年度はコロナ禍の影響もかなり薄れ、対面での面談が増加しました。ただし、オンラインでの面談を希望される企業も半数程度いらっしゃいました。今後は、企業の採用活動もオンラインと対面の併用が常態化していくと予想されます。

企業側との面談は例年と同じ時期の 2022 年 11 月から開始しました。2022 年 12 月にはオンデマンドでのガイダンスを、2023 年 1 月にはライブ配信による大学推薦に関するガイダンスを実施しました。2023 年 3 月には学生との個別面談を対面で行いましたが、特に自由応募の学生がオンデマンドのガイダンスを視聴しておらず個別面談に現れないケースがありましたので、周知の方法を改善していく予定です。また本学主催の冬期（12 月）業界研究セミナー、春季（3 月）・夏季（9 月）企業研究セミナーや、全学キャリアサポートオフィスの情報なども学生にとっては有用ですので、情報系就職担当としても積極的に利用を呼びかけました。

末筆となりますが、ご支援を賜りました本学卒業生の方々をはじめとする皆さまに厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援の程、よろしくお願いいたします。

2023 年度事業報告

2024 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 2023. 5.26 名工大6号館&オンライン
- 第1回役員会 2023.10.30 オンライン
- 学内幹事会 2023.12. 6 名工大1号館&オンライン
- 第2回役員会 2024. 2.19 名工大2号館&オンライン
- 幹事会 2024. 3.21 名工大6号館&オンライン

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 学生向け講演会
 - (1) 2023.5.19:株式会社デンソーウェーブ 原 昌宏氏「QR コードの開発・進化と普及」
 - (2)2023.10.6:日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所 山道 新太郎 氏「半導体を起点としたコンピューティング技術の将来」
 - (3) 2023.12.18:株式会社ディックソリューションズエンジニアリング 大野 日出夫 氏「時代認識/業界動向を踏まえた大切な視座」
 - (4)2024.2.5:ごきそ技術士会 橋本 英樹 氏・鈴木 克彦 氏
- 新入生向け電影会案内:一部学生、編転入生に対して実施
- 卒業祝賀会
- 電影会誌発行(第31号)2024.4
- 大学行事補助 2件
- 電影会賞贈呈 2024.3.26
- 卒業生と学生の懇談会 2023.12.18

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
- 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
- 名古屋工業会との連携

2024 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	3,807,613	通信費	760,000
入会金	1,290,000	印刷費	800,000
工業会より	150,000	事務費	1,000
利息	0	会合費	140,000
雑収入	0	学生行事補助	520,000
寄付金	980,000	大学行事補助	60,000
		総会補助	86,000
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	10,000
		雑費	10,000
		人件費	320,000
		繰越金	3,370,613
合計	6,227,613	合計	6,227,613

2023 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,273,042	通信費	754,630
入会金	1,275,000	印刷費	745,883
工業会より	50,000	事務費	968
利息	13	会合費	108,245
繰越利息	4,992	学生行事補助	564,760
雑収入	0	大学行事補助	40,000
寄付金	921,630	総会補助	85,863
		支部活動費	100,165
		インターネット経費	9,550
		雑費	0
		人件費	307,000
		繰越金	3,807,613
合計	6,524,677	合計	6,524,677

2024 年度役員(案)

- 名誉会長 犬飼英吉(E28)
中村光一(E41)
北村正(Es48)
- 顧問 川村信之(E53) 石橋豊(J56)
- 会長 山中清(J52)
- 副会長 川越英二(E47) 原田幹寿(E53)
藤社彰(J52) 安井晋示(E62)
- 理事 岩塚真之(E56) 岩崎誠(E61)
三宅正人(E60)
- 監事 市原正樹(E48)
- 庶務理事 廣瀬光利(E50) 青木睦(EJh4)
- 会計理事 平田達也(J62) 大塚孝信(CSh28)
- 編集理事 中村勇太(2013)
島孔介(CSh26)
- 庶務補佐 松井俊浩(EJh7)
- 会計補佐 安部功二(Ejh15)

学位取得者一覧

電気・機械工学専攻 (2024年3月 課程博士)

氏名	論文題目	主査教員名
間瀬 晃	GaN系 npn ヘテロ接合パイポーラトランジスタの研究	三好 実人
CHAUDHARI Bal Singh	MOVPE Growth and Characterization of CdTe Epilayers Grown Directly on Si Substrates	ニラウラ マダン
DUAN Xianyi	Reduction of Induced Electric Field in Human Body for Non-Radiative Wireless Power Transfer Systems	平田 晃正
原 誠	Study on Design and Evaluation Method of Vibrating Intrinsic Reverberation Chamber	王 建青
BAHAROM Bazilah Binti	A Study on Low-Profile and High-Efficiency Techniques of Dielectric Lens Antenna in 300-GHz Band	榑原久二男
武道 宏平	高周波絶縁型電力変換器の大電力化に向けた回路構成とその制御法	竹下 隆晴
ZHANG Endong	Charge carrier dynamics and photoelectrochemical properties of photocatalyst single crystals for solar-to-hydrogen energy conversion	加藤 正史
田中 和裕	SiC 結晶における高注入条件下でのキャリア再結合過程に関する研究	加藤 正史

情報工学専攻 (2024年3月 課程博士)

氏名	論文題目	主査教員名
稲吉 弘樹	A Study on Taint Analysis with Runtime Data for Tracking Information Flows in Android Apps	齋藤 彰一
高山 拓夢	Mathematical Models and Algorithms for Tensor Completion	横田 達也
YAWOVI Agbewonou Helton	Responsibility Evaluation in Vehicle Collisions from Driving Recorder Videos	大園 忠親
廣瀬 伸行	デザイン教育における自己調整学習を支援する対話エージェントの開発	白松 俊
LIN Ziang	移動ロボットを滑らかに制御するためのローカル経路計画手法とその高速化	田口 亮

入試・就職状況

2024年度入学者選抜状況

電気・機械工学科

	学校推薦	女子推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15	15	105	65
志願者数	35	51	356	549
受験者数	35	35	340	253
合格者数	15	18	106	91

情報工学科

	学校推薦	女子推薦	前期日程	後期日程
募集人員	10	5	85	45
志願者数	27	30	241	377
受験者数	27	30	230	185
合格者数	12	7	86	54

私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数		21
受験者数		18
合格者数		4

編入学・転入学 (3年)

()は内数で転入学数を表す

	電気・機械工学科 (電気電子分野)	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	14(1)	19(2)
受験者数	12(1)	18(2)
合格者数	5(1)	6(1)

電気・機械工学コース(夜間主)

	推薦	総合型選抜
募集人員	8	2
志願者数	8	5
受験者数	8	5
合格者数	8	2

大学院・電気・機械工学系プログラム(博士前期)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	54	96	若干名
志願者数	58	155	19
受験者数	58	153	17
合格者数	56	117	1

大学院・情報工学系プログラム(博士前期)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	31	71	若干名
志願者数	31	119	17
受験者数	31	117	16
合格者数	31	88	8

大学院・電気・機械工学系プログラム(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
9	3	3	3

大学院・情報工学系プログラム(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
7	5	5	5

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2	0	0	0

大学院・国際連携エネルギー変換システム専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
4	1	1	1

大学院・電気・機械工学系プログラム(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	7	7	7

大学院・情報工学系プログラム(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	1	1	1

2023年度卒業生就職状況

	電気電子分野			情報工学科		
	大学院	一部	二部	大学院	一部	二部
卒業生	109	118	2	117	144	1
進学者	1	89	1	3	114	0
研究生	0	0	1	0	1	0
一般企業	104	21	0	106	20	1
公務員	0	0	0	1	0	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	3	0	0	2	0	0
休学他	1	8	0	2	2	0
未定者	0	0	0	3	2	0

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。2023年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
伊藤 凌吾, 第一部電気・機械工学科
生地 遼太郎, 第一部電気・機械工学科
芝坂 亮哉, 第一部電気・機械工学科
高野 莉子, 第一部電気・機械工学科
水野 暁斗, 第一部電気・機械工学科
吉村 和哉, 第一部電気・機械工学科
井上 大河, 第一部電気・機械工学科
清水 皓太, 第二部電気情報工学科

氏名, 所属
森川 真渡, 第一部情報工学科
福富 舜介, 第一部情報工学科
櫻井 崇貴, 第一部情報工学科
石倉 雅紀, 第一部情報工学科
遠藤 史也, 第一部情報工学科
小島 大河, 第一部情報工学科
伊藤 泰智, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
電気学会 2022年電子・情報・システム部門大会 奨励賞(2023.8), 黒田英太郎, 電気・機械工学専攻, 前田佳弘准教授
電気学会 メカトロニクス制御技術委員会優秀論文発表賞(2024.1), 塩原卓矢, 電気・機械工学系プログラム, 前田佳弘准教授
電気学会 電力・エネルギー部門大会 YOC(Young engineer Oral presentation Competition)奨励賞(2023.9), 松島史弥, 電気・機械工学系プログラム, 青木睦准教授
第18回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞(2023.5), 川西 晶大、桜井 涼太、徳田 祥太、山根 一真, 情報工学系プログラム(川西、桜井、徳田)・情報工学科(山根), 齋藤彰一教授
CSS2023 優秀論文賞(2023.10), 稲吉 弘樹, 情報工学専攻, 齋藤彰一教授
第18回情報危機管理コンテスト テクニカル賞(2023.5), 加藤俊樹、上保達也、鎌倉仁、宮川夏海, 情報工学系プログラム(加藤)、情報工学科(上保、鎌倉、宮川), 齋藤彰一教授
電気学会 電力・エネルギー部門大会 YOC(Young engineer Oral presentation Competition)優秀発表賞(2023.9), 宮原稜斗, 電気・機械工学系プログラム, 青木睦准教授
IEEE名古屋支部 Student Paper Award(2024.1), 杉原智之, 電気・機械工学科, 森田良文教授
名古屋工業会賞(2024.3), 杉原智之, 電気・機械工学科, 森田良文教授
計測自動制御学会中部支部学業優秀賞(2024.3), 野上成美, 電気・機械工学科, 森田良文教授
副学長表彰(学術活動)(2024.3), 西依航太, 情報工学系プログラム, 石橋豊教授
副学長表彰(学術活動)(2024.3), 大谷祥多, 情報工学系プログラム, 石橋豊教授
"電子情報通信学会 MIKA2023 最優秀ポスター賞(若手部門)(2023.10), 手嶋康博, 電気・機械工学系プログラム, 菊間信良教授

電子情報通信学会 MIKA2023 ポスター賞 (若手部門) (2023.10), 垣見旭宏, 電気・機械工学系プログラム, 菊間信良教授
電子情報通信学会 ICETC2023 Student Presentation Award (Poster) (2023.12), 野田健太, 電気・機械工学系プログラム, 菊間信良教授
電子情報通信学会 ICETC2023 Student Presentation Award (Poster) (2023.12), 太田和也, 電気・機械工学系プログラム, 菊間信良教授
Best Paper Award of The 34th International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS) (2023.11), 大谷祥多, 情報工学系プログラム, 石橋豊教授
IEEE 名古屋支部 国際会議研究発表賞 (2023.4)、藤本崇人、情報工学専攻、徳田恵一教授
IEEE Signal Processing Society IEEE SPS Tokyo Joint Chapter Student Award (2023.12)、藤本崇人、情報工学専攻、徳田恵一教授
First Best Paper Award, 12th International Conference on Renewable Energy Research and Applications(2023.9), 酒井桃恵, 電気・機械工学系プログラム, 竹下隆晴教授
電気学会産業応用部門若手論文発表奨励賞(2024.3), 武道宏平, 電気・機械工学専攻, 竹下隆晴教授
名古屋工業大学学生表彰 学術活動部門学長表彰(2024.3), 武道宏平, 電気・機械工学専攻, 竹下隆晴教授
IEEE MTT-S Midland Student Express Award (2023.4), 岩本彩月, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (修士) (2023.6), 岸峻平, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会優秀ポスター発表賞 (2023.10), 杉山拓矢, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
IEEE International Symposium on Antennas and Propagation, Best Poster Award (2023.11), 岩本彩月, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
IEEE International Symposium on Antennas and Propagation, Best Poster Award (2023.11), Chatchai Chokchai, 電気・機械工学系プログラム, 榊原久二男教授
名古屋工業会賞 (2024.3), 中島芽意, 電気・機械工学科, 榊原久二男教授
第 62 回日本生体医工学会大会 Young Investigator's Award 最優秀賞 (2023.5), 伊藤有生, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
日本知能情報ファジィ学会 論文賞 (2023.9), 伊原滉也, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
FIT2023 第 22 回情報科学技術フォーラムヤングリサーチャー賞 (2023.9), 中村早希, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
第 21 回情報学ワークショップ 奨励賞 (2023.12), 原田誠一, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
第 21 回情報学ワークショップ 奨励賞 (2023.12), 鈴木崇弘, 情報工学系プログラム, 加藤昇平教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2023.06), 浅野敬祐, 電気・機械工学系プログラム, 岡本英二准教授

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみのみ)

2024 年度電気・機械工学類・系プログラム

類長/副専攻長 王 建青 教授
副類長/プログラム長 ニラウラ マダン 教授

2024 年度情報工学類・系プログラム

類長/プログラム長 加藤 昇平 教授
副類長/副プログラム長 玉木 徹 教授
白松 俊 教授
津邑 公暁 教授

2024 年度就職担当

電気・機械工学類
情報工学類

森田 良文 教授
櫻井 祐子 教授
森山 甲一 准教授

◎ 2023 年度退職教職員

電気・機械工学類
情報工学類

水野 幸男 教授
分島 彰男 准教授
石橋 豊 教授
Mauricio Kugler 助教

◎ 2023 年度新任教職員

電気・機械工学類
情報工学類

田中 裕士 助教
田中 剛平 教授
小田部 秀介 准教授
小泉 透 助教

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。2024年2月末までの寄付分を掲載しております。

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 昭 16 横井實 | 昭 55 森田満夫 岩崎政彦 谷川嘉浩 |
| 昭 22 村上庄之介 西川清司 | 昭 56 石橋豊 山口初一 浅羽哲朗 萩原秀和 |
| 昭 23 牧野和正 安藤敏幸 竹内節 大井一典 | 西山寿美 吉田直人 |
| 昭 25 山田清次 | 昭 57 安藤幹人 野口敏彦 鷺尾康史 内匠逸 |
| 昭 26 奥村土郎 原行一 松原英二 | 谷本弘二 青柳昌宏 鈴木克彦 |
| 昭 28 山田速水 | 昭 58 足立利浩 富田広和 浅井英利 村上真人 |
| 昭 30 小林任 青木茂 不破幸雄 加藤規 | 昭 59 酒井泰誠 |
| 昭 31 大嶋光朗 松尾純一 木林宗治 中曾透 | 昭 60 柴野健彦 |
| 昭 32 水谷安郎 | 昭 61 塚田敏彦 熊崎昭 高石一慶 |
| 昭 33 中谷恭朗 荒井英二 畑雅恭 寺社下政美 | 昭 62 犬塚信博 安井晋示 |
| 藤田正浩 森下正三 | 昭 63 田中力 鎌田和弘 竹腰健史 佐藤俊樹 |
| 昭 34 中原靖宜 草野洋 | 猪島政之 小林直樹 後藤篤 |
| 昭 35 三浦允之 岡田昌孝 金子勝藏 梅野正義 | 平元 林宏明 三浦篤志 |
| 大谷健嗣 後藤秋生 中西和義 | 平 2 荒川英夫 |
| 昭 36 西村秀夫 馬路才智 増田勝一 黒田和助 | 平 3 谷口一哉 |
| 山田和夫 小田征一郎 | 平 4 野村尚史 青木睦 |
| 昭 37 野田昭 半田徹 | 平 6 斉藤洋一 井原健次 |
| 昭 38 是木修一 中谷光男 細江勇 八代弘 | 平 7 松井俊浩 堀武雄 園部創 |
| 高島裕之 | 平 8 中島史敬 |
| 昭 39 下前哲夫 岡田守弘 矢田公一 石谷彰康 | 平 9 後藤富朗 |
| 水澤健一 岩間紀男 | 平 10 佐藤宣夫 布目敏郎 |
| 昭 40 小澤容 大西旻 山本健美 勝田幸伸 | 平 12 岸直希 |
| 昭 41 宇野啓一 谷辰夫 彦坂紘二郎 神本勝己 | 平 13 三浦太朗 |
| 前越久 | 平 15 川原淳平 橋本真吾 榛葉隆 |
| 昭 42 大野繁雄 小島一男 衛藤邦彦 伊藤洋太郎 | 平 16 加藤政幸 |
| 中山静夫 佐原定義 宇佐美忠男 青木猛 | 平 20 田中慎一郎 都築賢二 田中伸太郎 竹内一将 |
| 吉村洋典 水野重雄 | 平 21 本種和弘 |
| 昭 43 堀尾猛 森本晃一 | 平 26 荒木千佳 |
| 昭 44 渡邊興司 松岡幸生 柴田俊夫 長見晃 片桐 | 平 27 寺島由裕 |
| 清志 佐藤恒夫 菅野宗二 木原清 | 平 30 山中勇弥 |
| 昭 45 石割三千雄 須藤章夫 浅井正之 松崎敦志 | 平 31 大堀良介 |
| 加藤友康 桶昭一 荻野隆彦 | 平 32 石田稔 |
| 昭 46 津田孝明 香山道男 | 令 4 岩佐和輝 |
| 昭 47 山内一昭 星野幸吉 川越英二 加藤元三郎 | ABDUL MOHIDEEN NUZRATH HAMEEDH |
| 田島耕一 金澤秀喜 卯野秀忠 川橋憲 | 令 5 佐藤寿弥 松本善樹 巽友佑 |
| 昭 48 米山高志 市原正樹 中島正敏 北村正 | |
| 蓮田史則 平尾篤 | |
| 昭 49 須藤敏雄 緒方善郎 赤木泰文 田村安治 | |
| 朝倉吉隆 藤澤篤史 | |
| 昭 50 西元俊彦 浅井良一 丸山実 眞鍋和人 | |
| 荻原義也 | |
| 昭 51 吉村元 太田仁啓 糸見義雄 恩地秀男 | |
| 昭 52 山口好孝 宮脇誠 高石由紀夫 山中清 | |
| 久保田徹 東野秀隆 内海和彦 | |
| 昭 53 明慶寧 藤原享 後藤武志 山本博彦 | |
| 川村信之 任上彦 | |
| 昭 54 大前義信 竹田治徳 朝倉基広 村上仁志 | |
| 平畑真一 大江準三 水野守明 吉田誠治 | |
| 戸田利明 杉浦伸明 木村康則 | |

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口 : 2000 円

郵便振込先: 00860-9-19618 電影会

総会通知

2024年度の同窓会行事として、電影会総会ならびに懇親会を下記のように開催することと致しました。今年度は対面にて開催させていただきます。是非ご出席下さいませようご案内申し上げます。なお、昭和49年3月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満50年をお祝い致しまして、ご招待させていただきます(会費無料)とともに、ささやかではございますが、記念の品をお贈り致します。

日時: 2024年5月24日(金) 17時00分～20時00分 会費: 5,000円(一般) 2,000円(学生)
会場: 1号館0112講義室 無料(昭和49年3月卒業生)
会次第: 16時30分 会場受付開始(1号館0112講義室前) (当日、会場受付でいただきます。)
17時00分 総会 演題: エンジニアとして活躍するため、独立して
17時30分 講演会 会社をつくってみました
18時30分 懇親会(大学会館1階 生協大食堂) 講師: エイアイビュー株式会社 石川 英司 氏

◎ご出席の連絡は2024年5月17日(金)までに office@denei.jp まで電子メールにてご連絡下さいませようお願い申し上げます。

関西支部からのお知らせ

昨年(2023年)は初めてハイブリッド方式で支部総会を開催し、多数の参加をいただきました。母校からは安井晋示先生(E62)にお越し頂き、電力システム分野を中心に最新の話題をご講演頂きました。加えて現役参加の大島陽さんからソーラーカー部の現状と計画の報告があり、更なる活躍を期待し、参加者からも寄付金も行いました。

さて本年(2024年)の総会は7月13日(土)の午後を予定しています。場所はメルパークが閉鎖され、本年から中央電気倶楽部に変更します。なお開催形式については対面のみで検討しています。

詳細は例年通り6月上旬に往復ハガキで連絡いたします。ご意見等ありましたら、以下のアドレスにお問い合わせいたします。

kansai@denei.jp 関西支部長 川越英二(E47)

名古屋工業会総会のご案内

名古屋工業会2023年度定期総会及び会員総会が、2024年5月25日(土)に開催されます。皆様奮ってご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1ページ約1600字です。

編集委員 安井晋示(E62) 中村勇太(2013)
青木睦(EJh4) 島孔介(CSh26)
大塚孝信(CSh28)

発行 名古屋工業大学内電影会
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
青木睦(庶務理事)

E-mail: office@denei.jp URL: <https://www.denei.jp/>

名簿充実にご協力をお願いします

現在、電影会は約16,000人の存命会員を擁しています。その中で電影会誌をお届けできているのは半数に過ぎず、あとの半数は消息不明となっています。わたしたちは、より多くの方々に電影会誌をお送りすることで、絆を強くし、多くの情報、質の高いサービスを名工大とともに提供して参りたいと考えています。そこで、名簿の信頼性向上と充実、消息不明数の縮減を進める必要があります。名簿上は消息不明の方も同級生との間で連絡可能であることが少なくありません。同級生の最新名簿をお持ちの方におかれては、是非、その名簿を電影会事務局に送って頂きたくお願い申し上げます。まずは、ご一報ください。(meibo@denei.jp)

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

一口 : 2000円

郵便振込先: 00860-9-19618 電影会